

# Weekly Market Report

Jun 7, 2021

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

良好な経済指標を受けドル買い加速。今週は米CPIに注目。

### USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

### コメント

先週のドル円相場は、ドル買い優勢。週初から週央にかけては、英国・米国休場に加え特段目立つ材料がなく、109円半ばでのみみ合いで推移した。3日（木）には、米経済指標の良好な結果（米新規失業保険申請件数40万割れ、ADP雇用統計2020年6月以来の大幅な伸び）や、バイデン大統領の増税案撤廃報道が支援材料となり米金利が1.6%を回復し、つられてドル買いが加速し週高値110円33銭を示現と前週高値を上回った。ただ、週末に発表された米雇用統計が予想を下回る結果となったことから、失望感のドル売りが優勢となり急落、109円50銭台で越週した。今週は10日発表の米消費者物価指数が注目されており、4月のCPI同様伸び率が予想を上回ればドル買いが強まる可能性があるため警戒が必要。また、ECB理事会ではPEPP購入ペース縮小に言及するかどうか注目。（市場商品部為替G）

### 今週の経済指標（予定）

日付	イベント	予想
6/8(火)	(日本) GDP (前期比)	-1.2%
6/8(火)	(独) ZEW景況感指数	85.0
6/8(火)	(米国) 貿易収支	-683億ドル
6/10(木)	(欧州) ECB政策金利	0.00%
6/10(木)	(米国) 消費者物価指数	0.4%

### USD/JPY (5年間)



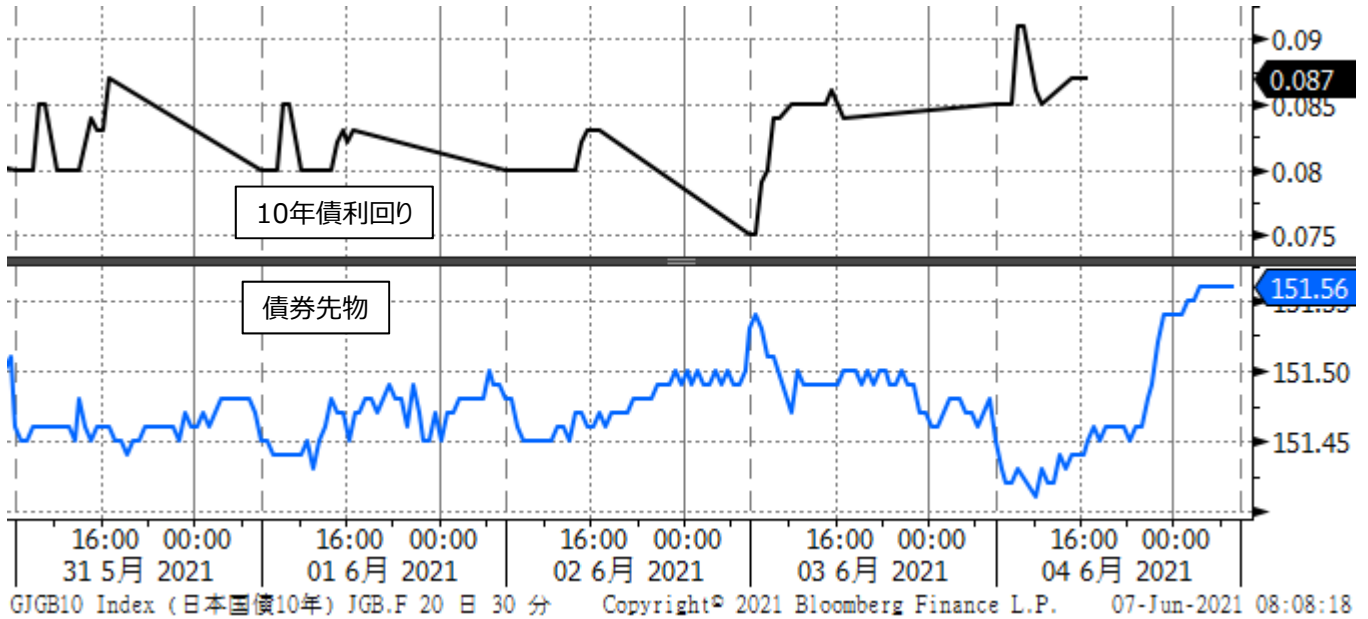
### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
福永純一	108.80 - 110.80	早期テーパリング観測が和らぐも、今週の米CPI結果次第では再び110円台を試す展開か、ECBのPEPPの行方にも注目。
三原大希	108.40 - 110.40	米CPIなどの発表でテーパリング期待の再燃が予想されるも、来週のFOMCIに向け値動きは限定的と予想する。

## 2. 円金利相場概況

米5月雇用統計をうけて金利は低下、木曜の米5月CPI結果待ちで金利は低位安定か

### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



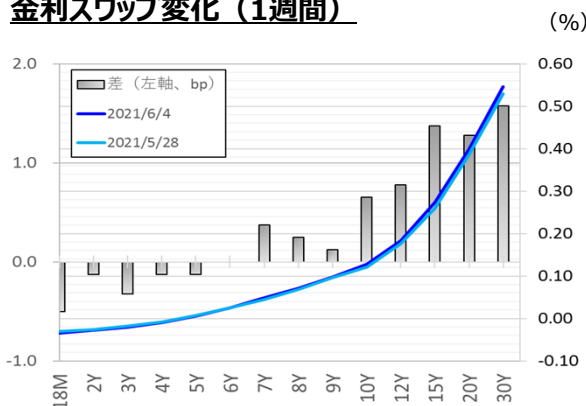
GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 20日30分 Copyright© 2021 Bloomberg Finance L.P. 07-Jun-2021 08:08:18

(出所) Bloomberg

### コメント

先週の円債市場は、週前半は週末に公表される米雇用統計待ちで取引閑散となり、JGB先物、現物ともに狭いレンジでの値動きとなった。4日には米ADP雇用統計など予想を上回る経済指標が発表され米長期金利が上昇し国内債も売り優勢となったが、すかさず押し目買いが入り、金利は小幅な上昇にとどまった。注目された米5月雇用統計は、雇用者数の伸びは4月から拡大も、市場予想には届かず債券買いが優勢になり、米10年債利回りは前日比 ▲7bpの1.55%と大きく低下。今後の注目は、木曜日に発表される5月CPIで、前回のよう市場予想を大きく上回る場合は、金利上昇になる可能性もあるが、物価上昇が市場予想範囲内であれば来週FOMC待ちになって金利はあまり動かず、米10年債利回りは、再び1.55～1.65%のレンジで推移すると思われる。米長期金利の低位安定により、円金利も再び安定して、10年債利回りは0.07～0.08%のレンジでの推移を予想する。(市場商品部/金利G)

### 金利スワップ変化（1週間）



### 5年円金利スワップ推移（5年間）



### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
正村光太郎	0.07% - 0.10%	米雇用統計を受け今週も0.10%以下の狭いレンジで推移の見込み。火曜の30年入札は金利水準から無難に通過の見通し。
伊豆浦有里恵	0.06% - 0.09%	動意薄い中、米金利やECB理事会の動きや30年国債入札などを確認しながら、円債市場は上昇余地を探る展開か。

### 3. 今週のトピックス

#### 資源価格とカナダドル相場

##### 原油価格の上昇とカナダ中銀のテーパリング開始がカナダドル相場を後押し

###### <資源価格の状況>

資源価格については、新型コロナウイルスの感染拡大による景気の失速からいち早く回復した中国の需要拡大と米国のインフラ投資計画への期待から大きく上昇している。5月に入って中国が最近の資源価格上昇が行き過ぎた投機によるものとして取引規制を強化したことで鉄鉱石価格が急反落する局面もあったが、引続き原材料不足がグローバル経済のボトルネックとなっているうえ、OECDの2021年実質GDP成長率見通しも米国が6.9%、中国が8.5%となっており、今後も資源需要の拡大が期待される状況だ。資源価格の2021年年初来パフォーマンスは原油+42%、銅+32%、鉄鉱石+29%と原油を中心に大幅な伸びを示しており【図表1】、景気先行指標として注目される銅価格については史上最高値圏での推移となっている。こういった資源価格の上昇を受けて資源国通貨であるカナダドル、ブラジルレアル、ロシアルーブルも堅調な展開が続いているが、今回は先進国通貨でもあるカナダドルの動向についてみてみたい。

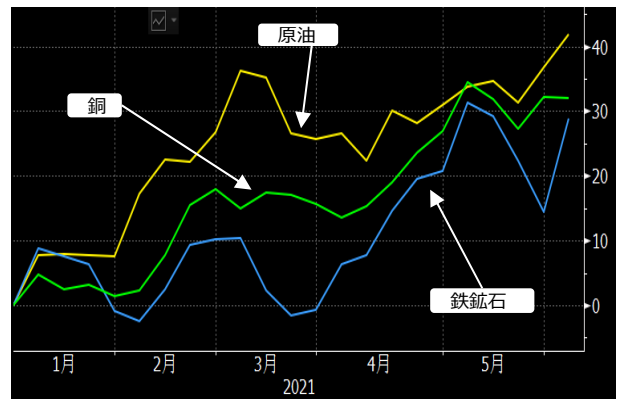
###### <カナダドル相場動向>

カナダは世界有数の資源大国であるが、オイルサンドの形で大量の原油を埋蔵していることから、カナダドルは原油価格との相関が強い通貨である。原油価格の上昇で2021年に入ってからカナダドルは先進国通貨で最もアウトパフォームしており、対円でも2017年以来の水準まで上昇している。シカゴIMMの投機筋ポジションを見てもロングポジションは増加傾向となっている【図表2】。また、カナダの中央銀行（BOC）が4月の政策会合で量的緩和のテーパリングを他国に先駆けて実施したこともカナダドルの上昇を大きく後押ししており、BOCは国債の週間買入れ額を40億カナダドルから30億カナダドルに減額し、今後も段階的に削減していく見込みだ。現在0.25%の政策金利の利上げ開始見通しについても2023年中から2022年後半に前倒しを行っている。BOCがテーパリングを開始した理由としては、新型コロナワクチンの進展による消費者マインドの向上と資源価格の上昇を受けた交易条件の改善でカナダ経済に自信を強めているからであり、BOCは2021年の実質GDP成長率見通しを4.0%から6.5%に引き上げている。なお、カナダの10年国債金利が先進国の中で相対的に高水準となっていることもカナダに資金流入が進む要因となっている【図表3】。

ただし、BOCのマックレム総裁がカナダドル高による景気の抑制について言及しているほか、今後米国でもテーパリング議論が活発化してくることが予想され、これらはカナダドルの上昇を阻む要因となってきそう。当面のカナダドル円相場のレンジは88.00-93.00円とみているが、2017年9月高値の91.64円が目先の上値ターゲットとなってくる。

(チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我 晃)

【図表1】 資源価格の年初来パフォーマンス (%)



(出所: Bloomberg)

【図表2】 カナダドル円相場とシカゴIMMポジション



(出所: Bloomberg)

【図表3】 カナダの政策金利と10年国債金利



(出所: Bloomberg)

## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会